



設立説明会であいさつするチームアトムの井代表＝厚木市中町の神奈川工科大ITセンター

厚木市を中心とした地域でロボット産業の発展を目指す事業団「さがみロボット産業事業団」(通称・さがみロボット468)が29日、設立された。同日、同市中町の神奈川工科大ITセンターで行われた説明会には市内企業などから約60人が参加した。

呼び掛け人で事務局を務める「ロボット研究開発拠点都市推進プロジェクトチームアトム」の井浩二代表が「いかにして地元の中小企業が元気になれるか、自動車産業で培った技術を生かせるか。連携してロボット産業を発展させたい」とあいさつした。

参加者との意見交換では、「県内にすでにある組織と似ている。連携はするのか」といった質問や「強力な事業団をつくるべき。結集できるかは行政のリーダーシップも必要」という意見が出た。事業団には42の個人・企業が参加。チームアトムと介護ロボットの開発を行ってきた神奈川工科大の山本圭治郎名誉教授と、七沢リハビリテーション病院の山下俊紀院長が顧問に就任した。通称名はさがみ縦貫道路の国道名「国道468号」にちなむ。今後、半年から1年間で規約をつくり、組織編成などを検討する。

ロボット産業の勉強会や展示会などを行い、事務局が参加企業の国・県への補助金申請や企業間マッチングの交渉、援助をする予定。

当面は山本名誉教授が開発した介護ロボット「パワーアシストシリーズ」の商品化に取り組む。